

多摩市文化芸術ビジョン(案)

令和 5(2023)年 7 月

多摩市文化芸術ビジョン検討委員会

ビジョン策定にあたって

私たちは、文化芸術を通じて生きがいや喜びを共有し、人々が自由に生き生きとした生活を送ることが出来る住みやすい街を目指し、令和3年に「多摩市みんなの文化芸術条例」（以下、「条例」という）を制定しました。

文化芸術は、私たちの心に潤いと安らぎをもたらしてくれます。創造する力を育て、豊かな個性と自己肯定感を育む力を持っています。次代を担う子どもたちの成長に大きく寄与します。文化芸術に触れることで、感性を豊かにし、共感する心、そして他者を理解する力を養うことができます。また、文化芸術を通じて、地域を越えて人々のつながりを築くこともできます。

このように、文化芸術は、私たちの生活や子どもたちの成長に欠かせないものであり、私たちの住む街の活力となるものです。（条例前文より）

文化芸術を通して、性別、国籍、職業、障害の有無、経済状況等に係わらず、乳幼児から高齢者までのあらゆる人々のつながりを生み出し、多摩市に暮らし、多摩市に集う全ての人々が、人生のそれぞれのステージを心豊かに過ごせる街の実現を目指します。

目指す街の実現とともに、近年の社会や環境の急激な変化に柔軟に対応するためには、中長期的な視点に基づき、文化芸術の振興に関する施策を推進するための計画が必要となります。計画策定にあたっては、多摩市における文化芸術の将来像を明確にし、共有した上で実行可能な目標を定めることが重要と考え、計画策定に先立ち「多摩市文化芸術ビジョン」を策定しました。

目次

1 策定の経緯.....	1
2 多摩市文化芸術ビジョンと計画の関係性.....	1
(1) 多摩市文化芸術ビジョン策定・計画等における期間.....	1
(2) 多摩市文化芸術ビジョンと計画の関係性のイメージ.....	2
(3) 多摩市文化芸術ビジョンの対象となる文化芸術の範囲.....	2
3 多摩市文化芸術ビジョンの目指す姿について.....	3
4 ビジョンの具体的なイメージについて.....	4
5 多摩市文化芸術ビジョンへの市民参加.....	8

1 策定の経緯

多摩市立複合文化施設（パルテノン多摩）が開館から 30 年余りが経過し、施設の老朽化が進んだことで、令和 2 年から令和 3 年にかけて大規模改修を行いました。

多摩市立複合文化施設の大規模改修を進めるにあたり、その活用方針を検討する多摩市立複合文化施設管理運営計画策定委員会から、「文化振興のための条例が必要」との提言を受けました。この提言を踏まえ、令和 3 年 9 月に市民や文化芸術に関わっている人たちと共に、文化や芸術をみんなで振興していくための「多摩市みんなの文化芸術条例」を制定しました。

条例に基づき、計画的に文化芸術を振興していくため、（仮称）文化芸術振興計画（以下、計画）の策定に着手することとなりました。計画策定に先立ち、多摩市の文化芸術の将来像をみんなで共有できる多摩市文化芸術ビジョンを策定することとなりました。

2 多摩市文化芸術ビジョンと計画の関係性

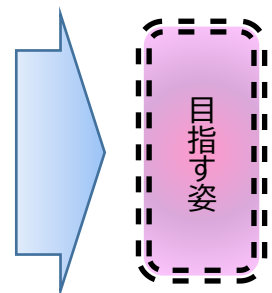
多摩市文化芸術ビジョンとは、将来のありたい姿や目指す姿を示すものです。一方、計画はそのビジョンを実現するための具体的な施策や手段、手順を示すものとなります。よって、ビジョンは具体的な施策を策定するための大前提となります。

多摩市文化芸術ビジョンは、文化芸術を通して目指す街の姿を表現する定性的（質的）側面をもつものとし、「多摩市は文化芸術で将来どのような姿でありたいか（状態）」を掲げています。

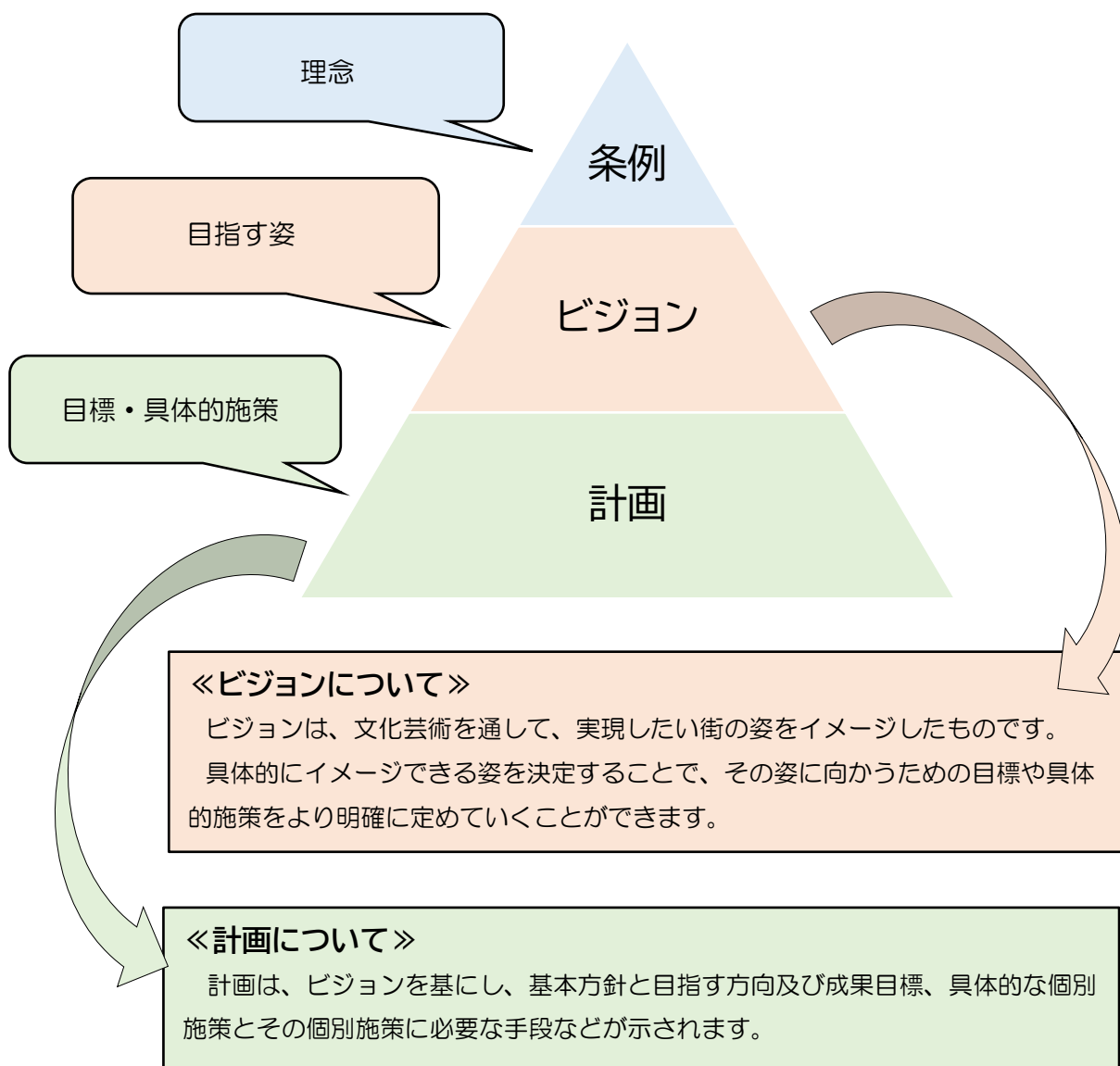
計画は、多摩市文化芸術ビジョンを実現するため、令和 5・6 年度の 2 か年で、段階的に進める戦略的な施策やロードマップ（行動や手順）を「（仮称）多摩市文化芸術計画」として策定する予定です。なお、計画の期間は令和 7 年度から令和 16 年度までの 10 年間とする予定です。

(1) 多摩市文化芸術ビジョン策定・計画等における期間

令和 4 年度 (2022)	令和 5 年度 (2023)	令和 6 年度 (2024)	令和 7~16 年度 (2025~2034)
ビジョンの策定			
	計画の策定		
		計画期間	



(2) 多摩市文化芸術ビジョンと計画の関係性のイメージ



(3) 多摩市文化芸術ビジョンの対象となる文化芸術の範囲

多摩市文化芸術ビジョンでの文化芸術の範囲は、文化芸術基本法で示す「芸術、メディア芸術、伝統芸術・芸能、生活文化・国民娯楽、文化財、地域における文化芸術」を基本としています。

3 多摩市文化芸術ビジョンの目指す姿について

多摩市文化芸術ビジョンの目指す姿

多様な文化芸術に、日常的に親しむくらしが
街全体に広がっている

【解説】

文化芸術は、乳幼児期から親しむことで豊かな感性を育みます。

人々が、互いの個性を尊重しながら、日常的に様々な文化芸術に出会い、参加することで、つながりや交流が生まれ、生活の質の向上につながります。多様な文化芸術に、日常的に親しむくらしが、街全体に広がっていきます。

4 ビジョンの具体的なイメージについて

多摩市文化芸術ビジョンは、将来、多摩市が、文化芸術を通じて実現したい街の姿をイメージしたものです。文化芸術を通して目指す姿を、皆で共有することができるようにしました。

親しみ楽しむ

日常的に親しめる

- 表現活動が、いたるところで行われており、日ごろから文化芸術に触れ、親しんでいる

【解説】

人々は、日常を過ごしているだけで、日ごろから文化芸術に触れており、意識する、意識しないにかかわらず親しんでいます。

多様な分野で様々な表現活動が行われており、その活動に参加・体験したい人や鑑賞・享受したい人に、文化芸術活動の情報が届き、生活の一部として自然に文化芸術に親しめる街の姿を表しています。

表現活動を楽しめる

- あらゆる表現活動を、身近でのびのびと行い、人々は活動することや鑑賞・享受することを楽しんでいる

【解説】

趣味として文化芸術活動を行う人やプロのアーティストなど、様々な表現活動の担い手が、屋内・屋外を問わず、のびのびと多様な分野で表現活動を行っており、その活動を受け止め楽しんでいる人々がいます。

文化芸術が身近にある日常を、活動や鑑賞・享受することで、人々が楽しめる街の姿を表しています。

触れる

乳幼児期から触れている

- 子ども達は、乳幼児期から文化芸術に参加・体験し、文化芸術に対する興味を深めている。保護者や地域の人々は、子ども達が文化芸術に触れることの大切さを理解している

【解説】

子ども達は、乳幼児期から文化芸術に親しみ、文化芸術がある生活が日常となっています。

乳幼児期から文化芸術に触れることは、創造する力、豊かな個性と自己肯定感を育むことにつながり、子ども達の成長になくてはならないものです。

乳幼児期から文化芸術に親しみ、文化芸術を身近で日常的なものにするような環境作りを、みんなで行っている街の姿を表しています。

いつでも触れられる

- ライフスタイルの変化があっても、いつでも文化芸術に触れられる

【解説】

人々は、生涯を通じて、文化芸術に触れたいときに触れることができます。

「仕事が忙しい」「子育てで時間がない」など、ライフスタイルの変化があっても、文化芸術にいつでも触れる機会があり、乳幼児から大人まで、鑑賞したい時に鑑賞でき、参加したい時に参加でき、創造・表現したい時に創造・表現できる環境がある街の姿を表しています。

つながり交流する

つながり合うことで生きがいを感じられる

- 文化芸術を通して地域で交流が生まれ、一緒に活動すること、教え教えられることで、生涯を通じてつながり、いきがいや喜びを感じている

【解説】

人々は、文化芸術を通してつながり合い、一緒に活動することでいきがいや喜びを感じています。

自身が得意なことを、知りたいと思う人々などに教える機会があり、教える側は生涯を通じていきがいを感じ、教えられる側は「新しいことができた」「楽しい」など喜びを感じることができます。そして教える側にもなっていく循環が生まれている街の姿を表しています。

交流しコミュニティが広がっている

- 表現活動が、様々な分野・多様な機関と連携し活発に行われており、市民だけでなく域外の人々とも交流が生まれ、コミュニティが広がっている

【解説】

文化施設を中心に、文化芸術を通して教育や福祉等の機関と広く連携し表現活動が行われ、人と人との交流が生まれる街となっています。

表現活動は市内で区切られるものではなく、市外の人々が活動に参加し、鑑賞者としても関わりをもちます。表現活動を行うことで、また、活動後に人々と余韻を楽しむ工夫を行っていくことで、市民同士、市民や域外の人々の交流が生まれ、団体等のつながりもでき、コミュニティが広がっていく街の姿を表しています。

機会がある

出会える機会がある

- 様々な体験を通して、生涯を通じて活動したいものに出会える機会や環境がある

【解説】

様々な体験ができ、生涯を通じて「今まで気づかなかったが、自分はこれがやりたかった」と思えることに出会える機会や環境がある街となっています。

多様なジャンルの文化芸術が身近にあり、気軽に触れることができ、体験を促すための場がある街の姿を表しています。

活かせる機会がある

- 得意なことや、専門的な知識・技術を活かす機会があり、文化芸術が多様な人によって振興している

【解説】

文化芸術に市民の得意なことや市民がもつ専門的な知識・技術をつなぎ、活かす機会があり、文化芸術に関わる人が増え、文化芸術が振興している街となっています。

表現活動を自ら行う人はもちろん、彼らを支援したり、体験する人をつないだり、多様な市民が文化芸術に参加できる街の姿を表しています。

5 多摩市文化芸術ビジョンへの市民参加

多摩市文化芸術ビジョンは、計画の前段として、多摩市の文化芸術の将来像を明確にするとともに、みんなで将来像を共有できるものとし、市民委員を中心とした検討委員会を立ち上げ、検討を進めてきました。策定にあたっては、検討委員会のほか、市民の皆さんの意見を広く取り入れるようワークショップやアンケートを行い、市民の皆さんが共感できるビジョンを目指しました。

●ワークショップ「文化芸術の将来像を一緒に考えませんか？」（詳細は・・・⇒）

日時：令和5年2月18日(土)午後2時～4時

場所：パルテノン多摩会議室3・4

グループ討論内容（抜粋）

テーマ：「多摩市の文化芸術で足りないと思うところ」と「多摩市の文化芸術を盛り上げるためには、何が必要かについて」

○レベルの高い、一流のアーティストを多摩市に呼ぶ

○子どもが文化芸術に触れる機会、知る機会が必要

○経験・体験の場が必要

○必要な人に届く情報発信（マッチング・ネットワークも含めた）が必要



●アンケート（詳細は・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・⇒）

実施期間：令和5年1月20日(金)～2月20日(月)

回答数：194人（内WEB回答179名／紙アンケート回答15名）

回答一部抜粋

設問：どうしたら、文化芸術を身近に感じたり、触れやすくなると思いますか。

○文化芸術への関わり方や触れ方を自然と教わることのできる環境があること

○ゼロ歳から参加できるイベントのバリエーションが必要

○文化芸術への関わり方や触れ方を自然と教わることのできる環境がある（ことが必要）

設問：市民主体で文化芸術を振興していくために必要なことは何だと思いますか。

○文化芸術活動を行っている人や団体が活動しやすい条件や環境を整えること

設問：子どもの豊かな文化芸術体験に必要なことは何だと思いますか。

○保護者だけでなく地域全体での文化芸術の居場所的、自己実現としての役割の必要性の理解（が必要）

設問：その他、文化芸術振興についてのご意見

○文化芸術というと「お金がかかる」という意識が先行するので、もっと気軽にふつうに触れるチャンスが大切



●多摩市文化芸術ビジョン検討委員会 委員名簿

石坂 奏	検討委員会委員歴任者（市民委員）
伊藤 裕夫	学識経験者（委員長）
岩佐 玲子	検討委員会委員歴任者（副委員長・市民委員）
柴田 ゆき	検討委員会委員歴任者（市民委員）
新倉 悟	検討委員会委員歴任者（市民委員）
西村 沙矢香	公募委員（市民委員）
渡辺 健	検討委員会委員歴任者（市民委員）

